

誠実に着実に

あけましておめでとうございます。2021年がスタートしました。この冬休みはどうでしたか。自粛であまりどこへも行けず、家族での生活を満喫することができたのではないのでしょうか。雪景色の元旦になるかと思いましたが、積もりませんでしたね。これからの2、3日がまた厳しい寒さになります。路面凍結などに気をつけて登下校しましょう。さて、3学期を迎えて皆さんに二つの事をお願いしておきます。一つ目は、言うまでもなく体を大切にすることです。いまだにコロナウイルスの感染状況は好転していません。手洗い、マスク着用、換気等今まで通り気を引き締めて行っていきましょう。また、睡眠、栄養、適度な運動などで抵抗力を高めておきましょう。二つ目はクラスの仲間を大切にすることです。このクラスでの生活もあとわずかです。特に3年生はこのクラスの仲間とは、何十年たっても繋がりが続いていきます。仲間を大切にすることとは、ただ仲良くするという事ではありません。授業や行事への取組、係活動等も含めて、どう生活することが仲間を大切にすることになるのか考え、最後の締めくくりを素敵なものにしていきましょう。今年の干支は丑(牛)です。牛は昔から農作業や物を運ぶときの労働力として人間の生活に欠かせない動物であり、勤勉によく働く姿が「誠実さ」の象徴とされました。また、十二支の動物の中で最も動きが緩慢で歩みの遅い丑の年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年と言われています。私たちも誠実に着実に生活し、事を成し遂げられるように頑張っていくしましょう。

**生徒意見発表****「3学期の抱負」 1年4組 久野 幸樹**

僕にとっての1年生の2学期は、挑戦し、成長した学期だったと思います。振り返ってみると、コロナの中での生徒会選挙や大中フェスタ、合唱祭などの様々なことに挑戦するチャンスがたくさんありました。そんな中で、活躍したり楽しんだりすることができたのは、全て周りの人々のおかげだと思います。また、生徒会活動では、小学校との違いを身にしみて感じながら、そして、責任の重さを日増しに実感しながら学んでいくことができました。任期が終わるまでの残りの日々も、大府中をより明るく楽しく過ごしやすい場にするために尽力していきます。しかし、行事が多くあったことや学校生活への慣れゆえに、細かいことに対する妥協が出てきてしまいました。そこで、3学期は、勉強面はもちろん、今までは意識がうすかった生活面や部活動においても中だるみすることなく、全ての面で一段階レベルを上げられるようにしなければいけないと思います。まず、勉強の面では、先生方が「1年生の3学期は2年生の0学期」とおっしゃるように、1年生の学習内容をしっかりと復習し、今までの定期テストの反省を生かし、より早く課題に取り組み、より密度の濃い学習になるよう努力します。部活の面では、先輩方への一年間の感謝を忘れず、また新入生が安心して入部できるような雰囲気をつくっていきます。そして、妥協してしまった部分の巻き返しができるようにがんばり、自信をもって2年生に進級できるようにしたいです。最後に、より充実した3学期にするために、これからもいろいろなことに積極的に挑戦し、学級でもたくさんの思い出をつくり、次のステージへ上がっていきたくたいです。

**「安全で住みやすい街にするため」 2年5組 安藤 彩羽**

ニュースで熊本県の球磨川が大雨の影響で氾濫し、家が流されているところや、山形県の最上川、岐阜県の飛騨川など豪雨災害による被害の状況を見て、映像から被害の甚大さが伝わってきた。また、父

が熊本の豪雨災害後にボランティアに行っていたので、その時の話を聞き、父が撮った実際の写真を見た。写真からは、「川津波」と言われるように、家があった場所に大きな木材が積み重なり、中には大人二人がかりでも片付けられない大量の土砂が入り込んでいた。とても住める状態ではなかったことがよくわかった。私の住む愛知県大府市でも他人事ではない。先日の社会科の授業で、大府市のハザードマップを見る機会があった。そのハザードマップには、小学校の周りや近くのショッピングモールなど、普段よく行く場所が災害の発生する可能性のある地域になっていた。大府市も水害の危険があり、東海豪雨では多くの家が被害を受けた。私の家もいつ住めなくなるかわからない。そうした豪雨による被害や、様々な災害が起きると、私たちは避難する。そして一時的に避難所で生活することになる。学校や市役所に避難すると毛布や水、懐中電灯など、最低限雨がしのげて、寝られる場所や生活に必要な機材が準備されていると聞いた。調べてみると、そうした災害備蓄品は地域の倉庫に準備されていて、いざという時に私たちを助けてくれることがわかった。避難所に行けば当たり前のようにある毛布や水も税金を使って市役所の方々が準備してくださっているのだ。今の時期、災害が起きて避難することになると、避難所での新型コロナウイルスの感染が怖い。けれど、アルコール消毒液やマスクなど避難所で生活する際の備品も税金がなければ準備ができない。私は最近、自分のお小遣いの管理を始めた。大切に使いたいと思うと、消費税の10%は正直嫌だった。ただ今回、豪雨災害が自分の身にも起こる可能性があること、避難した時に助けてくれる備品は税金でまかなわれていることを知り、みんなで将来の備えをしている大切なお金だとわかった。自分や家族の身に何かあった時に助けられるかどうかは、税金があるか無いかで大きく変わる。自分のお小遣いが減るのは嫌だが、みんなで税金を負担するしかない。中学校で使っている教科書や通学路の道路整備も税金でまかなわれている。今まで私は税金にマイナスのイメージしかもっていなかった。なぜなら税金の行方や何に使われているのかを知らなかったからだ。だが、今回調べてみて、自分たちに何かあった時や、緊急時のために備品が用意してあり、他にもきれいな街にするためにゴミの収集や公園の整備などに使われていることがわかった。税金が無ければ今のような安全で住みやすい大府市ではないと思う。これからは私たちの生活のためと考えて、税金を納めていきたい。



「身の回りから気づかされたこと」 3年4組 清水 大翔

「個人に貢献しても社会貢献とは言えない。」これは小学校の校長先生がおっしゃった言葉です。それから3年、この言葉が頭の中でもう一度よぎりました。そもそも社会貢献とは何を指して、何を実行すれば貢献したことになるのか。そのような曖昧な知識しかなく、社会貢献の言葉の意味を調べてみました。まず「社会」とは、人々が生活しているこの世の中のこと。「貢献」とは、物事に力を尽くし、よい結果をもたらすこと。つまり、「社会貢献」とは、自らが物事に対して進んで取り組み、みんなのために役立つこととなります。社会貢献をしようとしても、集団の中にいる人々には、それぞれの立場や気持ちが異なるため、理解せずに進めてしまうと、逆に混乱をまねく恐れがあり、そこに社会貢献の難しさがあります。ある日、小さくなって履けなくなってしまった靴を、団体を通してアフリカの発展途上国へ送ったことがあります。日本では当たり前のように使って、使い終わったら捨ててしまう物でも、アフリカや、発展途上国ではそれ以下の物を身に着け、靴はおろか、靴下さえ履けない子どもたちが沢山いるというのが現状です。日本は世界の中でも恵まれた環境で生活しており、できることは少なからずあると思います。他にも、フェアトレードのマークが付いている商品を買ってみるのも、社会貢献につながります。発展途上国の生産品を私たち消費者が買うことで、身近な国際協力をするようになります。しかし、実際に行動を起こし社会貢献するかどうかは自分自身の意思があつてこそそのことです。大きなこと、ハードルの高いことをする必要は、僕はないと思います。まずは身の回りのことから貢献できることを探してみませんか。

